

## 優秀賞（岩手県知事賞）

### 未来に繋ぐバトン

一関市立花泉中学校

二年

亀岡 かめおか

莉名 りな

私は、水とどのように過ごし、どのようにつき合ってきたのだろうか。

こう考えた私は、ある出来事を思い出した。

思い返せば、幼い頃から、近くにある小さなため池が私にとっての遊び場だった。夏休みになると、網とバケツを持ち、家を飛び出していった。近所の友達とザリガニやどじょう、エビをとっては大喜びをしていた。私は釣り遊びが大好きだった。あの時までは……。

「あの時。」それは、小四の春。池が不気味なオレンジ色に染まっていた。生き物達がたくさん棲んでいた明るい世界から、生き物達が消えた闇の世界に変わってしまったように感じた。

その状態は何日も続いた。私にはどうすることもで

きなかった。

数日後、消防署の人の指示で地域の人により池の浄化活動が行われた。オレンジ色の正体は油で、池全体に油とりシートがしかれた。母は、池の生き物や辺りの田んぼや畑に被害が及んでしまうことを心配していた。

私の大好きな生き物達が棲んでいた池は、地域の人で浄化活動を行ったものの、元の姿に戻るのに長い時間とたくさんの方の労力がかかった。私はそれ以来、釣り遊びをやめた。

私達が日々使う水は、川や地下水の水を浄化したものだ。地球は水の惑星といわれるが、私達が利用できる水は、全体のたった0.001パーセントなのだ。そんな貴重な水を私達は簡単に汚している。人間が生きていくために多くの生き物の暮らす環境が破壊されている。近年ダムや工場建設などの開発が進んでいるが、その開発により、多くの生き物が暮らさにくい環境になっている。私達が、自分達の生活の便利さだけ

を求めて、多くの生き物の環境を壊してよいはずはない。人だけでなく、多くの生物にとって必要不可欠な「水」。そしてまた、使える水は、地球の中で限られたものであるという事実。これらのことから、私達は、水の使い方を見直し、貴重な資源として大切にしなければならぬ。

私は小四の出来事をもとにもう一度、私達をとりまく水について考えてみた。

そして、海や川が汚れる要因は生活排水だと気が付いた。食器についた油污れなど、日々様々な汚水が川や地下水に流れていく。大好きな池も油のふくんだ汚水が原因だった。生活排水は、そのまま汚水が処理されず川に流されたりする。また、下水管を通り浄化センターへ運ばれて、浄化された水が川に戻される。浄化センターでは微生物の力を借りて汚れを分解している。しかし、油などは微生物が分解しにくい。私自身も油をふきとらない皿を洗うことはある。生活排水をゼロにはできないが減らすことはできるはずだ。例え

ば、「洗濯をまとめて行う」「食器は油污れをふきとり洗う」などなど。生活排水自体が減れば川や地下水に汚水がいくことが減り、微生物も助かるのだ。限りある資源を守るために、私達ができる一番身近なことは、生活排水を減らしていくことだと考える。

私にとって「水」は、いつも近くで支えてくれる大切な存在だ。そして「水」は、私達の生活や命に関わり無くてはならないものだ。人間は長い歴史の中で生活に必要な水の利用や管理を考え、受け継ぎ発展させてきた。まるでリレーのバトンのように。

そのバトンを汚れた状態で渡すのか、少しでも汚れの少ない状態で渡すのかは、私達の意識や生活の仕方などで大きく変わってくる。

私達にできることは、日々の生活を見直し、少しでもきれいなバトンを未来に繋いでいくことだ。水の未来は今を生きる私達一人一人が繋いでいくのだ。水を大切に守りぬく。祖父母の世代から父母の世代、そして私の世代へと受け繋がれた「水のバトン」を私

も走者の一人として未来に繋いでいきたい。

## 優秀賞（岩手県知事賞）

### 昔の生活と大震災から学ぶこと

西和賀町立沢内中学校

三年

北島 きたしま 奏音 かの

私が小さかった頃には、水は永遠に出るものだと思っていたので、たとえば手を洗う時も、お風呂に入る時も、水を出しっ放しにして使っていました。そんな水に対する私の考え方を変えてくれたのは、私の大好きな祖父です。

蛇口をひねれば水が出ることは、今では当たり前のことなのですが、昔はそうではなかったと、祖父がよく話してくれます。祖父が小さかった頃は、毎日毎日、用水路の水を大きな大きな瓶に入れて、家まで運んできたそうです。その瓶が今でも家に残っていたので、持ってみるととても重くて、水も入っていないのに倒れてしまいそうなほどでした。この水を毎日毎日家まで運んでいたのかと思うと、当時の生活の大変さが伝

わってきました。また、お風呂の時は近くにある堰から水を引いてきて、薪を燃やしてお風呂に入れるようにしたそうです。当時はシャワーもないので、全て自分達で動かなければいけませんでした。そんな苦労を知っているからこそ、祖父はお風呂から上がると、

「今日も良い湯だった。」

と言います。今は、水道も通り給湯器もあるので、昔の苦労や水の大切さをあまり感じる事ができていませんでしたが、祖父の話を聞いて、水の大切さやありがたさを感じる事ができました。

とても便利になった現代では、昔のように水道が流れなくなり、大変な思いをすることは無いと思っていました。そんな時思い出したのは、七年前に起きた東日本大震災でした。私の住んでいる地域は、震源から離れていたのですが、電気は止まったものの、水は流れていました。しかし震源に近い地域の人達は、電気や水が使えないのはもちろんのこと、大切なものを失ってしまった人達がたくさんいました。

発生から二週間後に、私の母は、被災した人達の健康状態を把握するために、被災地へ行きました。被災地には車が散乱していたり、火事によって焼け野原になっていたり、驚くほどの光景だったと母が教えてくれました。そのような状況にもかかわらず、被災地の人達がとても元気だったことが心に残っているそうです。

母から話を聞いた私は、被災地の人達が本当は悲しいはずなのになぜ元気でいられるのか、とても不思議に思いました。その理由の一つが、世界とのつながりであることをテレビで知りました。大震災が起きてすぐ、電気よりも先に全国からたくさん物資が届けられていて、その一つとして水も届けられていました。給水車が回ったり、自衛隊の人達によってお風呂が用意されたり、水は被災地の人達の命を救っただけではなく、人と人の心をつないだのだと感じました。

大震災が起きて日常を送ることができなくなった時、今までは感じることでできなかった、水がもつ大切な

役割について深く考えることができました。また、昔の人達の苦勞を知った今「蛇口をひねれば水が出る。」という考え方を改めて、限りある資源を大切に守って、いこうという意志も芽生えました。日々の生活を支え、人と人の心をつなぐ、生きるために必要な水を、大切に使っていきたいと思えます。そして、その大切さを、家族や友人などの私の身近な人達に伝えていきたいと思えます。

## 優秀賞（岩手県知事賞）

### 室根の里から海をおもう

岩手県立一関第一高等学校附属中学校

三年

菅原 すがわら  
菜央 な お

ある雨の日。

灰色の空気に沈んだ室根の山に、無数の雨粒たちが降り注いでいます。その中の一滴が、こうつぶやきました。

「もうすぐ僕らは地面に落ちて弾けてしまう。なんてはかない運命なんだろう。」

「いいや雨くん、そんなことはないよ！」

答えたのは、大きな葉っぱを揺らす、まだ若い木でした。

「なぜ？じゃあ僕たちは、どうなるの？」

小さな雨粒は、若い木の葉っぱの上にとびん、と着地すると木に尋ねました。

「降った雨粒が室根山の森の土に浸みると、雨水に土

の栄養分が溶け出すんだ。その水が、大川の流れに乗って、気仙沼の街を走り、やがて気仙湾にたどり着く。森の力が海を豊かにするんだよ。そう、雨くんたちが森と海をつないでいるのさ！」

そんな自然の声が聞こえてくるような美しい町、室根町。私が住むこの町では、毎年夏に「森は海の恋人」植樹祭を行っています。この植樹祭の始まりは、宮城県気仙沼市の養殖カキ漁師さんたちによるものでした。森と海には、どのようなつながりがあるのでしょうか。

今から三十五年ほど前、気仙沼湾では、ある深刻な問題が発生していました。養殖のカキがすべて毒々しい赤色に染まってしまったのです。原因は、プランクトンの異常発生による赤潮。カキは生きるために大量の海水を吸うため、赤潮の影響を直に被りました。血ガキと呼ばれた真紅のカキは、廃棄処分するほかなかったのです。

その当時、気仙沼湾に注ぐ大川沿いでは、工場の排

水により、水質があまり良いものではありませんでした。また、降雨のたびに山の土が川に流入したことも影響しました。川の源流である室根山の森林は、長く人の手が入らず荒れていたためです。

このような森の異変が、海の異変をも招いていたことに気づいたカキ漁師たちは、大川中流域の住民と力を合わせ、森への植樹を始めました。植えるのは、主に秋に葉を落とし、良質な腐葉土をつくる広葉樹です。

しかし、真つすぐな針葉樹と違い、曲がった部分の多い広葉樹は材木としては使えません。植樹の話が持ち上がったころは、住民の反対の声も大きかったようです。しかし、漁師たちが海と森との密接な関係を丁寧に説き、植樹への協力に感謝することを忘れずに根気よく活動を続けた結果、年々事業を拡大し現在のような植樹祭になったのだそうです。

私たちが植えた木々の向こうに、清らかな海があり、その海の命は私たちの生活に密接に結びついています。そのことを心にとめて行動することが大切だと私は思

っています。だから、私は日常の中で、例えば次のようなことを心がけています。食事は食べきれぬ分だけで自分でよそい、食べ終わったら汁や油分を要らない紙で拭いてから洗います。学校で美術のパレットを洗う時も同様で、この時使うのは筆洗に残った水です。書道教室でも書き損じた紙で硯や筆を拭いてから洗っています。こうすれば、拭いた分だけ汚れを川に流さずに済むからです。

森の命は、海の命とつながっています。そして、海の命は私たちに恵みをもたらしてくれます。森と海とを守るために、私たちができること。それは、まずは知ることです。命のつながりを、私たちに与えられている恩恵を知り、自然を守るために行動を起こしていくことが大事なのではないでしょうか。

食卓の向こうにある海を、絵筆の向こうにある海を、そして、森の向こうにある海を、忘れてはいけません。私たちは自然に生かされているのだから。

## 優秀賞（岩手県知事賞）

### 水は私達の生きる道につながっている

奥州市立胆沢中学校

三年 千葉 侑來樂

ポツ、ポツ、ポツ。今、雨が降っている。私がこうやって文章をつづっているこの瞬間もたえ間なく降り続けている。あなたはこの雨をどんな存在だと考えるだろうか。「ジトジトしていて暗いし、嫌。」「外で遊べないからつまらない。」以前の私なら、このように答えていただろう。でも今は、そうは思わない。雨は恵の奇跡的な存在と考えている。なぜなら私達人間は水が無いと生きていくことが不可能だからだ。人間の体の約六十パーセントを占めているのは水だ。つまり、私達にとっての生きる上での必需品でもある。

この水が世界から消えたらどうなるのだろう。五百年ほど前に、私の故郷胆沢で、田畑が枯渇し、水不足になった。貯水するダムが作られていなかったその頃

は、雨が一週間降らないだけでも深刻な水不足になったそうだ。水をめぐっての戦争もあり多くの人々が命を落とした。今私達がこうして水を飲んだり自由に使用する事ができるのは先人達のおかげだ。私が住んでいる胆沢には二つのダム、そして胆沢のシンボリック存在の分水施設がある。五百年前から続いている水を巡る争いを収めようとして石淵ダムが作られたのが始まりだ。それに伴い、昭和二十八年には円筒分水工が作られ、そして今は胆沢ダムも作られた。先人達の熱き思いが私達の生活を支えてきているのだと思うと、感謝せずにはいられない。

だが私はふと疑問になった。なぜ水不足になるのか。でもその疑問はいとも簡単に解決した。なぜなら、私達が無駄使いをしているからだ。歯みがきをする時、蛇口をひねったままだったり、シャワーで髪を洗う時も出したままになっていたり。思い当たる節はいくつかある。これらを改善する事ができれば少しは変わるのではないだろうか。いくら地球は「水の惑星」などと



言われていても、粗末な扱いをしていては水不足になるだろう。私達がほんの少し考え方や視点を変えるだけで見えてくるモノは全く違う。私達一人一人の気持ち、言葉が、行動が世界を変える事ができるのではないか。

だが水は時として台風での雨による土砂崩れや洪水、地震による津波といった大きな厄災になることもある。この厄災で何人の尊い命が失われてしまっただろう。水は私達にとって命そのものでもあるが、天災という敵にもなってしまう。水についてどのように考え、向き合っていくかが大切だと思う。

世界でも、水不足で亡くなったり、水が飲めない国がある。日本は安全で美しく美味しい水が飲めるが、それはいつまで続くか分からない。明日、水が突然なくなってしまうかもしれない。それは誰にも分からない。だからこそ、今こうやって幸せに水を使用できる事、自分が生きる事ができている事に感謝して生活したい。

水は有限。無限なんかじゃない。自然なのだ。自然と向き合う事は自分と向き合う事。水を愛す事は世界を愛す事。水を考える事は未来を考える事。水は私達の生きる道につながっている。水のおかげで私達は生きているのだ。私は、自分の住んでいる地域にダムがある事を誇りに思いたい。水が世界に存在しているおかげで、私達は世界の国々につながっている。皆で生きる事ができている。

水。平仮名にすると二文字。たった二文字。されど二文字。この言葉の重みは計りしれない。今回、水について深く見つめ直せた事は私にとって大きなチャンスであり、幸福だ。水が今後も私達にとっての希望でありますように。その為に日頃から水の事を気にかけて、節水を自ら行っていきたい。そして胆沢の水の歴史ももっと詳しく調べていきたい。

知らないうちに水は循環している。水が私達の生活を支えている事に一人でも多くの人が気付いたら世界はもっと happy になるだろう。

## 優秀賞（岩手県知事賞）

### 私が考える水

盛岡市立繫中学校

二年

藤平 優衣

私が住む町は、水ととても関わり合っている。

一つ目は温泉。繫温泉と呼ばれ、ホテルがたくさんあり、観光客から高評価を得ている。ホテル以外にも足湯や手湯、温泉卵が作れる所がある。心も体も温めてくれる気持ちいい温泉だ。

二つ目は、わき水。藤倉神社というところから水がわき出ている。これは飲み水で、地域の住人にとっては、かけがえのない水だ。冷たくて、夏はとってもおいしい。

三つ目は、ダムだ。御所ダムと呼ばれる大きなダムがある。御所ダムは繫のシンボルで、発電やカヌーの体験を行っている。夏には、御所湖祭りがあり、地域の人たち全員で、盛り上げている。

四つ目は、田んぼで使われている水だ。繫には、多くの田んぼがあり、岩手山からひいている。この水を使って、おいしい米を作っている。

このように、私の身近な水は、繫のかけがえのない存在だ。

しかし、繫は水害に弱い。土砂くずれが激しく豪雨の時は、木々が流され、建物には泥水が入る。このような水害が、何度か起った。

二〇一七年には、御所湖祭りの五日前の八月二十五日に豪雨が起こった。御所湖祭りができなくなってしまいそうな状況だった。そのため、私達繫中学生は、泥を流したり、流木を片づけたりした。広い場所を泥だらけになりながら必死にきれいにした。力仕事なので、終わっていた時はヘトヘトだった。でも、きれいになったところを見た時の達成感は忘れられない。無事、御所湖祭りを行うことができた。大変だったけれど地域のために役に立てて良かったと思う。

このような水害は、繫だけではない。三、一一の東

日本大震災の津波、台風などで、全国各地に被害が出ている。毎日使っている水が建物を壊し、人の命をうばう物になると身にしてみた。

また、世界には、水に困っている人々が多くいる。きれいな水が飲めない人や、重い水を持って、何kmも歩いて運ぶ人などが多くいる。

こんな悲しいことが起こらないように、水は平等にあるべきだと思う。汚染せず、節水を心がけて、日本から水の支援や、技術指導をもっとさかんに行えばよいと思う。

かつて、大昔に有名な文明が栄えた場所、何もない広大な砂漠の中で人々がいる場所はどちらも、「水がある場所」だ。人の体は五十〜七十パーセントが水でできていて、水を飲まないと五日も生きられない。これほど人間に欠かせない水を飲むために人が集まる。

私は、その水の力を使って、色々な機能がある道具をつくれば、生活が便利に豊かになると思う。例えば、自動で進む管に水を入れると、汚い水がきれいな飲み

水になる道具。水力で動く車。水が蒸発することを使って、人の体も蒸発したみたいに一瞬で見えなくなる道具。絶対に冷めないお湯。絶対に解けない氷。こんな物は、今は夢物語だ。しかし、これらが発明される世の中になれば、希望や夢がかない、明るく幸せな社会になると思う。

水は、人間が生きていくうえで欠かせない物だ。しかし、世の中には、水に困っている人や水害に遭い大変な思いをしている人がいる。蛇口をひねればすぐ、水を飲むこと、使えることに感謝し、節水を心がけ、一滴一滴大切に生活していきたい。

## 佳作（岩手県知事賞）

### 水の大切さ

盛岡市立渋民中学校

二年

工藤 くどう

芽愛 めい

私の家のすぐ近くには、堰があります。祖母にその堰の名前を聞いてみると、舟田堰と言う事が分かりました。最初は川だと思っていたけれど堰だった事を知って驚き、堰を調べてみました。堰とは、河川等をしき止め、上流側の水位を上げる事によって、水を貯留したり、用水路などへの取水を容易にしたり、計画的な分流を行ったりする役割を持っているそうです。また、下流側からの海水の逆流を防止して塩害を防ぐ場合もあります。ちなみに、私の家の前の堰は、生田川から始まり、舟田へ流れて行くので、舟田堰と呼ばれています。舟田堰は、田んぼで米を作るための堰と聞きました。農家の人達が組合を作って自分達でその堰を作ったそうです。昔は、その水を飲んだり洗濯をす

る時に使ったり日常生活に利用する事が多かった事も分かりました。管理は家の近くの人と組合の人達で協力してやっています。堰にかかるお金は、組合の人達が出し合っているそうです。でも祖母の話の中にこの堰で幼い子供達が何人も命をなくしてしまった事も聞いて、大事な水も時には命を奪う怖いものにもなるに分かりました。

私は、毎日流れている堰を見て、一枚の田んぼに米ができるまでぐらいの水が必要なのか、と思い、調べてみました。例えばは縦25m、横10mのプールがあるとすると、そのプールに6mの深さの水が必要になります。それは、私が住んでいる家がすっぽり入る深さだと知り、とても驚きました。

ところで、豊かな水のおかげで私の家の周りには、田んぼがたくさんあります。秋になると、私の祖父母も稲刈りをし、米を収穫します。去年の秋は祖父母が、「新米でおいしい米をたいたよ！」と笑顔で話してくれました。日本人の主食は米です。私は、特にすしが

好きです。しかし私の妹は、白い米の上に何もかけず、そのまま食べています。お米その物が好きなようです。日本の食料自給率は39%だと祖父母が言っていました。でも米だけは、国内の物です。100%の自給率です。

が出なかつたりと、水はとても貴重だと言っていました。私たちの生活や米作りに必要な水をこれから環境を守りながら大切にしていこうと思いました。

米はまさに和食の中心です。和食は平成25年にユネスコ無形文化遺産になりました。和食にはない物で、世界に回転ずしはたくさんあるそうです。その文化遺産を守るためには、お米をきちんと作っていかなくてはなりません。日本人の主食の米を作っていくために、これからも水は十分必要になります。

大切な水を守るためには、環境を守る事が大切です。今、世界では環境の変化で異常気象が発生しています。また、綺麗な水を守るのも私達です。そのためにはどうしたらいいかを考えてみました。私達が出来ることは、水を節約する、川にごみを捨てない、風呂の水を再利用するなどがあります。日本は水が豊富です。外国に行った叔母の話では外国はあまり水が多くなく、スーパーで高いお金を払って飲んだり、お風呂にお湯

## 佳作（岩手県知事賞）

### 生きるために

花巻市立東和中学校

三年

菅原 すがわら

颯 そう

今年も我が家が蛙の大合唱に包まれる毎日が続いている。多くの水をたたえた水田。リンゴの花が満開になり、受粉を心待ちにしているようにも見える。いつもの春の光景。安心すると共に今年こそ五穀豊穰を願う。そう願うのは、「水」がもたらす恩恵と猛威の両面を見たからだ。

昨年、多くの台風が岩手県も直撃した。降雨は、北上川上流から日を追うごとに増水し、花巻市では川の氾濫、道路への浸水だけでなく、稲穂や野菜が水につき、リンゴが流された。初めて見る光景。真っ黒に染まった稲穂や野菜。ぶかぶかと流れていくリンゴ。収穫直前、「水」はまたも、その脅威を人間に見せつけた。その後、水稻は食べられる米とするために特別な

薬剤散布が施されたが、いつもの年に比べ収穫量は三割減となった。

ここ数年、集中豪雨と日照りの繰り返しで極端になってきたように感じる。木々の緑色や草花の色が以前よりも薄くなっていると感じているのは私だけだろうか。昨年の農作物の不作も、原因は収穫期の大雨だけでなく、生育期の水不足も関係しているそう。そのふり幅が大きすぎると、農作物は直接影響を受ける。自然の降水の中で生育する農作物は、私たち人間が蛇口をひねれば当たり前のように水が飲め、必用な分だけの生活用水を得られるようにはいかないのだ。

水道がなく、作物とともに自然の水を享受してきた先祖の人々の暮らしの知恵に学ぶべき時が来たと思う。その一つは多くの「山の上」にある「水神様」だ。どうして水の神様なのに山の上？と疑問に思う人もいるだろう。水は雨が山で浄化されてもたらされるものだからという説もある。もちろん私もその説に賛成だが、もう一つ私なりの持論がある。それは、地域に暮らす

人々は信仰すべき神様が高台にあれば守るべきその地域全体を一度で見渡すことができ、常に水と地域のつながりを意識していられるというものだ。穀雨を願うとき、大雨を止ませるように願うとき、なにより湧き出る清水を求めて古より多くの人が「水神様」に親しみをもっていたことだろう。

我が東和中学校のすぐ近く、土沢城跡の館山公園にも、お堀跡があり、「水神様」も祀られている。昔からの小さな祠だが、長年大切にされてきたことがよく分かる。「土沢」という地名も鐺八幡神社の裏山の谷川が由来という。ここからも東和町の歴史に、水が深い関わりで繋がっていたことが感じられる。私は、この高台の館山公園から見渡すことのできるふるさと東和町の水の景観を誇りに思っている。斜面の多い土地に棚田を切り拓き、田瀬湖からの農業用水路がはりめぐらされている、先人の苦難の結晶ともいえる風景だ。さらに、猿ヶ石川の雄大な流れに醤油や味噌の醸造や成島和紙。東和町を代表する文化にも「水」はなくては

ならないものだどハッとさせられるのだ。語り継ぐべき東和町の歴史は、高台の館山公園散策で挨拶したり、東和中学校にいらした方々が口を揃えてお話される。「ここから見える水のある風景が大好きで何より大切だ」と。

先人が築き、引き継がれてきたものを大切にしながら、自ら未来を切り拓いて故郷の発展を支えるために、今日から自分たちができることはなんだろう。私は節水と朝のランニングや通学途中のごみ拾いを続けていこう。一人一人では小さな一滴でも、いつか流れる水脈となり故郷東和をうるおす一本の大きな川となるように行動し続けよう。

## 佳作（岩手県知事賞）

### その一滴が世界を救う

盛岡市立繋中学校

二年

高橋 たかはし 愛茉 えま

私たちの暮らしには、水がかかせない時代になっています。みなさんは、どんな時に水を使っているのか、思い出してみてください。

手を洗う時、お皿を洗うとき、お風呂に入る時……。たくさん思い浮かぶはずです。そして、私たち人間の体内の約六十％は水だと言われています。水がある大切さ、水の恐ろしさについて私はもう一度考え直すことにしました。

まずは、水の大切さについてです。私たちの住んでいる繋地区には、御所湖という湖があります。そこでカヌーの大会をしたり、魚が住む場所を作ったりと生き物の役に立っています。足湯や手湯や温泉のもとになっているのも水です。そして、おいしい水が飲める

藤倉神社などがあります。そこで私は改めて水の大切さを知ることができました。しかし繋地区は、東日本大震災と繋の土砂災害で二度も水の恐ろしさを感じました。

また、世界には日本のように簡単に水が得られず、水が必要としている人がたくさんいる事を知りました。小学六年生の時に世界と繋がるためのボランティアに参加した時のことです。そこでは、世界の方々とふれ合うことができました。その時、女性が母国について話してくださいました。そこで、

「日本のようにおいしい水があたり前な生活じゃない。私たちのように生きるために、きたない水を飲んでる人もいます。水が簡単に手に入ることは素晴らしいことです。ですから日本という国を誇りをもってほしいです。私たちの国は小さい子どもが脱水症状で亡くなることもたくさんあるので、とても残念です。いつかおいしい水をたくさん家族に飲ませるのが私の大きな夢の一つです。」



とお話ししてくれました。その言葉は今でも私の心に刻まれています。日本というこの国の当たり前は世界のどこかではあたり前じゃない、すばらしいことなんだ、ということを感じさせてくれました。水がある当たり前がどの国でも当たり前であってほしいです。もし、話を聞かせてくれた女性のように今水に困っている人がいたら日本はもっと今まで以上に支援する必要があると思います。

今では泥水をきれいな水に変えられるものも開発されています。小さい国の日本が、大勢の人を助けたり、救うことはできないかもしれませんが、でも、井戸のつくり方をおしえたり、水を送ったりすることで今までは助けることのできなかつた命が日本人の手で救えるかもしれないと思うと私はとてもわくわくします。

私は、これからもっともっと水を大切に使い、節約したいと思います。そしてこれからも外国人の女性から教えてもらったことを思い出し、忘れないようにしていきたいです。

その一滴が命を救います。小さい子供の発した『水をください』という言葉に応えられるような人になりたいと思います。

きっと、

「その一滴が世界を救う」……と。

## 佳作（岩手県知事賞）

### 水不足を経験して

盛岡市渋民中学校

二年

竹田 たけだ 美奈 みな

今、人口増加や環境破壊などにより、水はどんどん減少していき、何十年かすると海水の水も使われるのではないかと予測されています。また、水不足により店で売られている水が高く売られるようにもなるのではないのでしょうか。

私は、こうした水不足を家で体験したことがあります。一回目は、東日本大震災です。水だけでなく、電気や火も使えなくなりました。今まで、当たり前のように使っていた物が、急に使えなくなり、何日か不便な生活を強いられるようになりました。そして、私の家では災害に備えていなかったもので、一晩はあまり食べられず、ロウソク一本で生活し、大きな地震の後も来た、大きくて長い時間続く余震に怯えていたのを、

今でも鮮明に覚えています。次の日の朝も、水・電気・ガスのある生活には戻らず朝も何も食べられない状態でした。買っておいている水もなく、一日中飲んだり食べたりすることができなく、ゲームをして空腹をまぎらわせていました。ですが、その時ラジオで流れていた「イオンが臨時で開店する」という知らせを聞いて、やっと何か食べられるんだと喜びました。行ってみるとたくさんの方が長い列を作っていました。そこから、水と食料を手に入れるには時間がかかりましたが、何日分かは食料を手に入れることができ、とてもうれしかったです。

私は、ここでいつ何が起きるか分からないので、食料や水は買っておいた方がいいのではないかと思います。

二回目の水不足を体験したのは、小学四年生の時の事です。ある日突然水を引いていた所の水がなくなり、水道が使えなくなってしまうました。私は、どうすればいいんだろうとずっと、悩んでいました。洗たくが

できない、風呂に入れない、お湯をわかすにもたくさん  
の水がかかる、など生活に困ることがたくさんで  
きました。約一週間かかってできた水は泥や砂が混  
じっている。いくら、コインランドリーを使ったり、  
温泉に行ったり、水を買ったりしても水はすぐ無くな  
るなど、何週間たっても水不足は解消されませんでし  
た。そして、泥の混じっていた水はお父さんが工事を  
して直してくれたことにより、だんだんときれいにな  
っていき元の生活が出来るようになっていきました。  
それは、とても快適で、私達の生活は水に支えられて  
いるんだなど、改めて実感しました。

こうした水不足を体験したことにより、私はいつ水  
が不足するか分からない時代なので、日頃から水を大  
切にするようにしていきました。当たり前なことかも  
しれませんが、歯をみがく時や、手を洗う時には、水  
を出しっぱなしにせずに水を止めて作業したり、料理  
をする時には、食品を洗う時や、お湯をわかす時には、  
余けいな水を、使いすぎたりしないなど、少しでも水

を節約できるように心がけています。少しずつ水を節  
約することによって、水不足が拡大していくのを防ぐ  
ことができるのではないかと思います。誰かがいつか  
やってくれるだろうと思って、水を節約しないのでは  
なく、自分から行動していけばいいと思います。水不  
足という大きな課題が解決されると、たくさんメリ  
ットがあると思います。それは、不衛生な環境で育っ  
ている人達が救われます。今、問題となっている難民  
の人々やアフリカ州などの子供達が病気にかかり亡く  
なってる問題で、水があれば、少しでも症状をやわら  
げたり苦しませなくする事が出来ると思います。

世界中で、苦しんでいる人を救うためにも、私たち  
で、水を節約していきたいと思えます。

## 佳作（岩手県知事賞）

### 水のいい使い方

花巻市立東和中学校

二年 多田 莉理子

「あなたは水道水を飲んでいただけますか？」今年の冬は例年のない寒波で、水道管の破裂があいつぎました。でも、ペットボトルの水が売られていますから、飲み水に困ることはなく、一見すると、何の問題もないように思えます。でも、果たしてそれでいいのでしょうか。

私は自宅にいるとすぐペットボトルの飲料を手に入れます。コンビニに行けば、冷蔵庫の中には多種多様なペットボトルが並んでいます。お茶だけでも複数のメーカーの製品が何種類もあります。ただの水も「ミネラルウォーター」「○○の水」などと称して産地ごとに売られています。量販店ではなおさらで、2リットルの大型ボトルで山積みにされていて、まさに「ペット

ボトル飲料大国」日本です。

でも、これがすべて飲料として消費されているのでしょうか。売れ残ったり、消費期限切れで捨てられたりしていたら、それは問題です。私は、近所のコンビニやスーパーに出かけて聞いてみました。

まず、セブンイレブンやローソンといったコンビニでは、毎日一万二百四十mlものペットボトル飲料が買われていくそうです。次に売れ残るペットボトル飲料はあるのか聞いてみたら、おどろいたことのないそうです。販売量に合わせて仕入れていることと、他の食品に比べて消費期限が長いことが、売れ残りをゼロにしている理由だと分かりました。それでも地元の数店だけでは本当なのか分からないので大手メーカー（I社）に問い合わせると、売れ残ったペットボトル飲料は少ないが、あれば法律にのっとり処分しているのだそうです。ただし、消費者の飲み残しが捨てられるケースは多いと考えられているそうです。

そして、その他にも分かったことがありました。そ

れは炭酸飲料の売り上げの伸びに比べてミネラルウォーターと緑茶の売れ行きがここ数年で急激に上がっていることです。ミネラルウォーターは、はっきり言ってわざわざ買う必要のないものです。日本の水道普及は世界のトップにあるからです。なぜみんな水道水を飲まないで買った水を飲むのでしょうか。無駄な出費ではないでしょうか。また、昔からの「お湯を沸かして茶を飲む」というような風景や文化が消えていくことにもつながっていくのではないかと思うのです。

ペットボトル飲料を飲むのがダメだとは思っていません。ただ、安易に水にお金を払うより、春夏秋冬身の回りに「水」の景観が広がり、安全な水がどこの家でも手に入ること、日本の環境を守ることや、「水をのむ」「お茶をのむ」ということを単なる水分補給の行為ではなく、文化だと考えて引きついでいくことが「水」の国に暮らす者として大切だと思ったのです。その上で、消費期限が長いから震災などで水道が止まったとしても備蓄しておけば助かるとか、屋外での持ち運び

に適しているとかといったペットボトル飲料のよさを生かしてバランスよく利用していくことが大切だと私は思いました。

日本の水道水は世界一安全と言われています。世界にはまともに水が飲めない人もいると考えると、私達の生活は恵まれているのですから水を大切にすること、水道の蛇口の向こう側に、私達に「よりよい使い方」を問う自然と人間の歴史があることも考えてみませんか。